

保育学生による地域子育て支援の取り組み

—2010年度活動報告—

A Community Parenting Support Program by Students in Early Childcare
Practical Training School : A Report of the Activity 2010

幼児教育学科

澤	津	まり子
立	石	あつ子
柴	川	敏之
秋	山	真理子
堤		幸一
笹	倉	千佳弘
田	中	誠
山	根	薫子

はじめに

本学幼児教育学科では、2010年度子育て支援を目的とした学生ボランティア団体G B A (Girls and Boys Be Ambitiousの略) を結成し5年目を迎えた。過去4年間の取り組みについては、既に報告済みである¹⁾²⁾³⁾⁴⁾。

昨年度の課題として、①「学生の資質向上」、②「世代間交流の充実」、③「学生参加数の拡大促進」、④「子育て支援ボランティアの原点に帰って」の4点があげられていた。もう少し詳しく言えば、①については公演内容と運営能力がさらに向上していくことが、②については高齢者の参加の拡大と高校生の新たな参加が、③については学生のゆとりのある参加と交流広場の充実が、④についてはG B Aの本来の目的の確認が、それぞれ取り組むべき課題としてあがっていたのである。「学生参加数の拡大促進」については、ボランティア活動参加の動機に関する研究や、実習体験を通じた自己効力感の変化に関する研究⁵⁾⁶⁾⁷⁾を参考としながら、より多くの学生が本事業へ参加するよう働きかけた。

本報告は、上記のような課題解決を念頭においてすすめてきた、2010年度における地域子育て支援の取り組みの経過および結果をまとめたものである。

1 活動内容

1) 「就実やんちゃキッズ ～きてみてあそぼうでえ～」

2008年度に立ち上げた「就実やんちゃキッズ ～きてみてあそぼうでえ～」は今年で3年

目を迎えた。本年度は9月を1回増やし、年間9回の活動を行った。公演内容および参加者は、表1のとおりである。

表1 就実やんちゃキッズ活動内容

日 時	公 演 演 目	参加人数	学生数
第1回 5月22日	パネルシアター「おもちゃのチャチャチャ」 リズム体操「たまごがけごはん」 オペレッタ「3匹のこぶた」、幕間に手遊び 交流広場～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 34人 子ども 47人	88人
第2回 6月19日	パネルシアター「金太郎」 リズム体操「ボヨヨン行進曲」 オペレッタ「白雪姫」、幕間に手遊び 交流広場～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 49人 子ども 64人	88人
第3回 7月17日	パネルシアター「おばけなんてないさ」 リズム体操「ハッピージャムジャム」 アンサンブル「アンパンマンマーチ」他、幕間に手遊び 交流広場～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 91人 子ども 100人	48人
第4回 9月18日	パネルシアター「はたらくくるま」 リズム体操「ばわわっおたいそう」 オペレッタ「おむすびころりん」、幕間に手遊び 交流広場～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 83人 子ども 107人	48人
第5回 10月30日	パネルシアター「いないいないばあっ！だあれがいない？」 リズム体操「サンサン体操」 オペレッタ「ヘンゼルとグレーテル」、幕間に手遊び 交流広場～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 43人 子ども 50人	47人
第6回 11月27日	パネルシアター「はたらくくるま」 リズム体操「ドンスカバンバンおうえんだん」 オペレッタ「すてきなすてきな宝物」、幕間に手遊び 交流広場～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 49人 子ども 69人	49人
第7回 12月18日	パネルシアター「赤鼻のトナカイ」 リズム体操「エビカニクス」 オペレッタ「おむすびころりん」、幕間に手遊び 交流広場～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 40人 子ども 56人	38人
第8回 1月22日	パネルシアター「コンコンクシヤンのうた」 リズム体操「ボヨヨン行進曲」 オペレッタ「赤ずきんちゃん」、幕間に手遊び 交流広場～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 人 子ども 人 未定	人 人 未定
第9回 2月19日	パネルシアター リズム体操 オペレッタ、幕間に手遊び 交流広場～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 人 子ども 人 未定	人 人 未定

*第3回～第5回の学生数は、2年生が実習で不在のため1年生のみの参加となっている。

公演内容については、パネルシアター、リズム体操、オペレッタで、幕間を手遊びでつなぐ形式が定着している。全てのプログラムにおいて、年々参加する子どもの年齢層が低くなるのに伴い、単純明快なストーリー、わかりやすい言葉遣いや表現を心掛けている。

今年度は新たなレパートリーとして、アンサンブルが加わった。「アンパンマンマーチ」等のメドレーは子ども達に馴染みのある曲で、リズムにあわせて踊ったり口ずさんだりと好評であった。ドラムやマリンバを始めとする生演奏を初めて間近で聴く子どもも多く、新鮮な印象を受けたようであった。

保護者アンケートによると、毎回「声が聞こえにくい」等の意見が多数あり、当面の課題となっていた。参加者の増加に伴って、発声法や話し方等の工夫にも限界があった。ピンマイク・スピーカー等の音響設備を整えることによって、声が聞こえにくいという当面の課題は概ね解決した。今後は長期計画を立て、さらに音響設備の充実を図りたい。

交流広場においては、子ども達が安全に過ごすための人員配置にも配慮している。自分たちが楽しく遊んでいる姿を見せながら遊びに誘い、一緒に楽しく過ごしている。一人ひとりにあった適切な言葉がけやルールを守るよう促すなど、臨機応変な態度に苦心している。また、授業で製作した玩具や遊びを子ども達に試す新たな取り組みも始まった。身近に子どもと関われる場としての提供である。

運営面では、当日の活動には直接参加しないが、事前・事後を活動の中心にしたマネージャー役を設定した。現在4名のマネージャーが事前のチラシの制作、事後の記録編集およびアンケート集計を担っている。さらに、音響および大道具・小道具の製作係りを募集中である。これら専属スタッフによって、効果的な音響環境の整備や、計画的な新しい大道具作りも可能になることを期待している。

2) 「出前就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」

今年度も昨年同様に「出前就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」を4ヶ所で実施した。赤磐公演（赤磐市西山公民館）、瀬戸公演（ゆう遊プラザ）、瀬戸内公演（ゆめトピア長船）および岡山公演（岡山市生涯学習センター）である。公演の基本構成は、学内で行う「就実やんちゃキッズ」と同様で、前半45分間の公演と後半45分間の参加者との交流広場である。公演の具体的内容については表2のとおりである。赤磐公演は赤磐市の親子クラブの研修を兼ねており、公演後当日のDVDを各々の親子クラブに資料として配付した。瀬戸内公演では瀬戸内市が主催する子育て応援まちづくりイベント「せとうち子どもフェスティバル」に参加し、公演とあそびの広場を担当した。あそびの広場では今回新しく紙飛行機作りのコーナーを設けた。また、公演とあそびの広場の時間以外はイベントのボランティアスタッフとしても活動した。岡山公演はJDS岡山のクリスマス会への参加であった。学生はダウン症児とその保護者と関わることによってダウン症についての理解を深めることができた。

この出前就実やんちゃキッズは学内の就実やんちゃキッズに参加しにくい地域の親子に対して子育て支援の輪を拡大するとともに、学生がその地域の子育ての状況を理解することを

目的として実施している。また、この活動は長期休暇を利用して実施しており、1年生が新たな演目に挑戦できる時期でもある。今年度は新たな内容を考案するにあたってパネルシアターの実技研修に参加した。その結果、パネルや絵の大きさ、絵の動かし方に改良が加わり、見やすく、見ごたえのあるものができあがった。オペレッタにおいても、子どもに親しみのあるおはなしを基に、ストーリー、台詞、歌を工夫し、さらに配役、衣装、舞台装置など思考錯誤を繰り返しながら創作し、観客を満足させるものにできあがった。

表2 出前就実やんちゃキッズ活動内容

日時	会場	公演演目	参加人数	学生数
9月13日	赤磐市 西山公民館	パネルシアター「はたらくくるま」 リズム体操「ばわわっぶたいそう」 オペレッタ「おむすびころりん」、幕間に手遊び 交流広場～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 88人 子ども 101人	48人
9月14日	岡山市 ゆう遊プラザ	パネルシアター「はたらくくるま」 リズム体操「ばわわっぶたいそう」 オペレッタ「おむすびころりん」、幕間に手遊び 交流広場～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 43人 子ども 54人	48人
10月14日	瀬戸内市 ゆめトピア長船 (せとうち子ども フェスティバル)	リズム体操「サンサン体操」 オペレッタ「ヘンゼルとグレーテル」 手遊び「動物園に行こう」 パネルシアター「からすのパンやさん」 あそびの広場「はたらくくるま」	380人 117人	41人
12月4日	岡山市生涯学習 センター (JDS岡山支部ク リスマス会)	パネルシアター「赤鼻のトナカイ」 リズム体操「ハッピージャムジャム」 オペレッタ「おむすびころりん」 交流広場～おねえさんと楽しく遊ぼう～	大人 50人 子ども 70人	49人

出前やんちゃキッズ後に行う保護者アンケートによればこれらの公演は好評で、次年度もまた来てほしいという要望もあった。また、学生には、1年生のみの初出前公演が無事終了したことで、達成感を味わい、さらに新たな課題へ挑戦する意欲が沸いてきている。

2. アンケートの方法および結果

1) 保護者へのアンケートの方法

受付でアンケート用紙を配布し、「やんちゃキッズ」終了時に回収した。アンケートは子どもの年齢、子どもとの続柄、プログラム内容、今後の参加の有無、感想の5項目を尋ねた。

2) 学生の振り返りの方法

「やんちゃキッズ」終了時、学生に振り返りシートを配布し、その場で記載させ、回収した。評価項目は公演、交流広場、全体としての20項目で5件法による評定と2項目の自由記述からなっている。

3) 保護者へのアンケート結果

以下は「就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」(2010/5/22、2010/6/16、2010/9/13、2010/9/14、2010/9/18) で実施した5回分のアンケートの結果である。全回答数は266であり、参加した子どもの人数に基づいたアンケート回答率は77%であった。またアンケート記入者の続柄は、ほとんどが母親(90%)であり、次いで父親(7%)、その他(2%)であった。

(1) 参加した子どもの年齢について

参加した子どもの年齢は、表3のとおりで、1～4歳未満の子どもの割合が8割以上を占めており、中でも3歳未満の子どもの割合が約6割で昨年度までに比べ低年齢化している。やんちゃキッズの開催対象年齢である就学前年齢それも幼稚園入園前年齢の子どもの割合が適切に参加していたことがわかった。

表3 参加した子どもの年齢

年齢	人数	%
1歳未満	33	9
1～2歳未満	106	30
2～3歳未満	79	22
3～4歳未満	76	22
4～5歳未満	30	9
5歳以上	28	8
計	352	100

(2) プログラムについて

①全体の時間

公演および交流広場の合計時間は、「就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」は90分であったが、この時間の長さについて、表4のようにほとんどの人が「ちょうどよい」と答えた。

表4 全体の時間の印象(保護者)

時間の長さ	人数	%
ちょうどよい	220	90
長い	22	9
短い	3	1
計	245	100

②いちばんよかったと思うプログラム

全5回の公演内容をまとめ人気百分率を帯グラフにしたものを、図1に示した。

5回の公演ともプログラム構成が異なるので、一概に比べることはできないが、オペレッタなどのその日のメインとなるプログラムを「いちばんよかった」とする保護者が多かった。子どもたちは「交流広場」を挙げる割合が保護者に比べて多かった。これは演目を観るだけでなく、能動的に、自由に

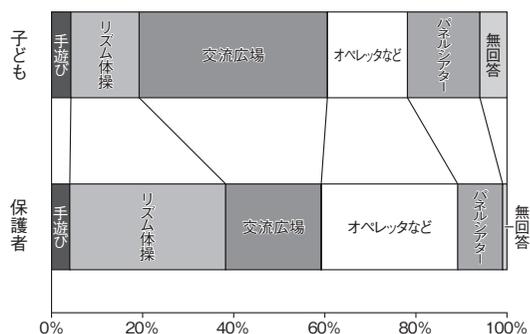


図1 一番よかったプログラム

活動を選べる上に、学生たちと直接にふれあって遊ぶことができるためであると思われる。

(3) その他

表5のように、「今回のような企画があれば、また参加したいと思いますか」という問いに対して、ほとんどの参加者が「思う」(86%)と回答した。一昨年度のアンケートで、本活動について「定期的に行って欲しい」というコメントが数多く寄せられた。これを受けて昨年度より、ほぼ毎月「就実やんちゃキッズ〜きてみてあそぼうでえ〜」が実施されたが、予想を超える参加者の増加やこの「また参加したい」という回答の多さは、地域子育て支援への継続した取り組みとして、本活動がますます期待されていることを示しているものと思われる。

表5 また参加したいか(保護者)

	人数	%
参加したいと思う	233	86
思わない	1	0
わからない	5	9
無回答	32	12
計	271	100

4) 学生の振り返り

2009年度から、学生の振り返りを支援し活用する方策の一つとして、「振り返りシート」を導入しており、2010年度で2シーズン目となる。以下、やんちゃキッズ(2010年5・6・9月の3回)に参加した学生(のべ169名)の振り返りシートの結果を図2に示した。

なお1年生では大半のものが3回とも参加していたが2年生は5・6月のみの参加である。

これらをのべて取り扱うのは、学生内の振り返りによる成長ではなく、参加学生全体の平均的な振り返りの実態を示すためである。

また振り返りは20項目の5件法による評定と2項目の自由記述からなっているが、今回は評定項目に関してのみ結果を報告

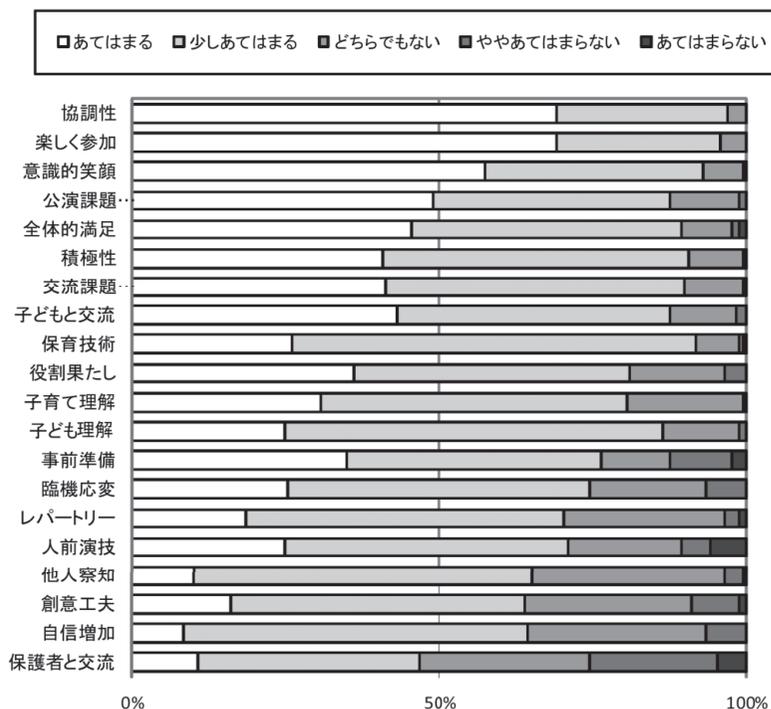


図2 やんちゃキッズの振り返り [平均評定の高い順]

する。図2は各項目のうちの評定点の割合を百分率で表示したもので、全20項目を平均評定点の高い順に並べてある。

(1) 平均評定値：総平均値は4.1で、最高値が「みなと協力できた(協調性)」の4.7で、最低値が「保護者と交流できた」の3.3であった。どちらでもないが3.0であるので、高低の違いはあるものの、全部の項目に対して積極的に肯定的評定をしていたといえる。

(2) 2009年のデータとの比較：振り返りの平均的な実態を知るために、2009年度のデータとの比較を行った。その結果、項目間の関係について：2009、2010両年度の各評価項目の平均評定値間には、積率相関 ($r=0.81$, $p<.01$) もスピアマンの順位相関 ($r=0.84p$, $<.05$) も有意に非常に高い相関が見られた。

つまり振り返りの平均的な実態としては、項目間の優先順位には安定した一貫性があり、評定値にも高い類似性があることが示された。この知見は、イベント実施前から、実施の際の留意点や練習時の重要ポイントを指摘してやるなどで、参加予定学生の気づきを促進させることに活用できるだろう。

導入時の分析から、振り返りシートに関する知見は、支援する教員側に適切な方針、見通しを与えてくれることがわかっていたが、今回、振り返りの平均的な実態として、評価項目間の優先順位などが示されたことで、さらに活用できることが分かった。今後もこの方式を継続して、イベントごとに学生に振り返りを促し、またその結果を次へフィードバックして活かしていくことは、極めて効果的であることが示されたといえるだろう。



①リズム体操「ばわわっぶたいそう」



②交流広場(トンネルコーナー)



③交流広場(マットコーナー)



④交流広場(お絵描きコーナー)

おわりに

以上、2010年度の活動を報告してきたが、それらを活動の目標に従って、次のように総括した。

1 学生の資質向上

公演内容については、今年度初めて学外の実技研修に参加したことによってレベルアップを図ることができた。また、リハーサルの実施によって、学生相互の意見・感想を真摯に受け止め本番に向けて短時間の内に改善されている。事後の振り返りおよび保護者アンケートによる意見についても情報を共有し次回の参考にするなど、質の向上に向けて努力している姿が認められる。公演を側面的に援助するため、音響環境の整備も徐々に進めているところである。

G B Aの運営については、学生リーダーを中心とした自主的・主体的な活動を目指している。そのためには、学生マネージャーの役割が重要である。現在は事前のチラシの制作、事後の記録編集及びアンケート集計を担っている。さらに音響および大道具・小道具の製作等も分担できれば、演技者の負担が軽減されるであろう。

2 世代間交流の充実

交流広場を地域に密着した世代間交流の場として、高齢者の参加の拡大を図るため、「おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう」と呼びかけ、学生による近隣へのチラシ配布を実施している。高齢者の参加は1回に1～2人とまだ少数である。今後も継続した地道な呼びかけが必要であろう。高齢者にとっても楽しく参加でき、学生や保護者も一緒にふれあえるような場の提供によって世代間交流の充実を図っていきたい。

また、高校生の新たな参加も模索している。昨年度1・2月に試行したが定着には至っていない。参加人数の適正化等に配慮しながら、検討していくこととする。

3 学生参加数の拡大促進

年度初めの1年生を対象としたガイダンスでは、G B Aの趣旨説明と実演を行った。単なるイベントと受け止められないよう目的意識を強調した。このG B Aへの参加の呼びかけが功を奏し、学生参加数は、2008年度生33名（30%）、2009年度生40名（37%）、2010年度生51名（43%）と年々増加している。学生参加数の拡大によって、2グループによるローテーション化を図り、学生のゆとりのある参加実現のためには今一步の増員が望まれる。

また、交流広場においては、1・2年生合わせると毎回80名以上の学生参加により、交流広場の遊びの充実とともに、子どもや保護者にきめ細やかに対応することが可能となった。

4 子育て支援ボランティアの原点に帰って

学生がG B A本来の目的をどこまで理解して参加しているか、やんちゃキッズの振り返り分析により確認した。多くの学生は子ども理解や子育て理解の上に、公演やノンプログラムによる遊びを実践している様子が窺える。内訳を見ると、公演に対する意識は高く、他人察知や保護者と交流は低い。事前準備ができるものと、その場の応用力が求められるものの差が顕著であった。学生の中にある程度の基本的趣旨は浸透しつつあることが確認されたが、今後ともさまざまな機会を得て、原点に立ち帰って考えるようにしたい。

また、保護者に対して、学生のボランティア活動であることの伝え方の工夫については、今年度まだ具体的な方法は見出されていない。来年度以降も引続き、認識を得られるような対策が必要であろう。

5 今後の課題

1) 学生マネージャーの役割強化

G B Aの運営については学生マネージャーの役割が重要であることは先に述べたとおりである。今後の活動への必要性から道具係の設置が求められる。G B A発足から5年目を迎え、舞台装置の老朽化に伴い、今後少しずつリニューアルが必要となる。しかし、現状では理想的な材料の調達が難しいため、大道具作りを断念しがちであるが、自由に使える大型ダンボールや道具類（ダンボール、カッター、絵具類等）を常備することによって、いつでも作れる体制を整えたい。

2) 倉庫の整理整頓

公演のレパトリーが増えるのに伴い、道具類の増加による倉庫の整備も課題の一つである。コンテナを用意し、物品の整理や、舞台の大道具の支柱・観客席等で自由に組み合わせ活用できるようにしたい。

3) OGによる協力支援体制

発足当初はOGによる実技・製作指導等の支援が得られていたが継続することは難しい状況であった。昨年、本学の卒業生グループtushima-Jの参加も実現したが単発に終わっている。現在では、G B A発足以来5年目を迎え、OGの人数も100人を超えている。このあたりで卒業後数年経過したOGによる協力支援体制の構築が望まれる。

4) 5年間の総括

改めて5年間を振り返り、今後の方向性を見出すこととする。G B Aは、2006年岡山県備前県民局の子育てキャラバン事業への応募を契機に、子育て支援ボランティアグループとして発足した。当初は、夏休みに公演の準備をして、9月にキャラバン事業を4カ所で実施す

るという学外中心の活動であった。3年目より「就実やんちゃキッズ」として学内中心の活動に移行し、参加者の要望により、年間の実施回数が徐々に増えていった。また、当年度からのキャラバン事業は「就実出前やんちゃキッズ」に引き継がれ、毎年実施し、過疎化地域の活性化に貢献している。5年を経過し活動が充実してきたとともに、学生の負担も増加している。

こうした活動を行っているG B Aの特質は、単位がでるわけでもなく、サークルでもない、学科が支援する子育て支援のボランティアグループということにある。学生の自主的・自発的活動として位置づけられている。教員の役割は、学生が活動しやすいよう側面的に援助することである。しかし現実には、学生一人ひとりの認識レベルには格差があり、教員の援助に頼っている部分も少なくない。現状のスタイルを維持しつつ、学生の自立性を強化する方法はないものであろうか。そのためには、①真のリーダーシップを発揮できる学生リーダーの育成、②マニュアル化の徹底、③電子掲示板による情報の共有化および蓄積などが考えられる。

引用文献

- 1) 村田恵子、澤津まり子、立石あつ子、(2006). 保育学生による地域子育て支援の取り組み－備前地域子育てキャラバン事業報告－就実論叢、36（社会篇）、pp.135-152.
- 2) 澤津まり子、永田彰子、田中誠、立石あつ子、(2007). 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2007年度活動報告－就実論叢、37（社会篇）、pp.81-98.
- 3) 澤津まり子、堤幸一、立石あつ子、伊藤真、笹倉千佳弘、田中誠、永田彰子、山根薫子、Z.山田章子（2008）. 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2008年度活動報告－就実論叢、38（社会篇）、pp.285-298.
- 4) 澤津まり子、伊藤真、堤幸一、立石あつ子、笹倉千佳弘、Z.山田章子、田中誠、山根薫子、(2009). 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2009年度活動報告－就実論叢、39、pp.233-247.
- 5) 堤幸一、村田恵子、立石あつ子、澤津まり子、(2008). 短期大学保育学生におけるボランティア活動の動機分析（継続動機を中心として）、就実教育実践研究、1、pp.85-94.
- 6) 堤幸一、澤津まり子、立石あつ子、(2009). 短期大学保育学生におけるボランティア活動の動機分析Ⅱ－動機づけ構造と参加決定因を中心として－就実教育実践研究、2、pp.55-64.
- 7) 堤幸一、澤津まり子、立石あつ子、(2010). 短期大学保育学生の自己効力感の変化－実習経験を通じて－就実教育実践研究、3、pp.57-66